



150anniversary

記念式典
12/14
10:00

王子小 HP→ 東京都北区立王子小学校 学校便り 令和6年10月31日



かがやけ！王子っ子

㊦がえる子 ㊦んばる子 ㊦さしい子 ㊦んこうな子

◆来校の際には、必ず、ネームズレートを着用し、受付をお通りください◆



褒めて伸ばす



校長 原田 英孝

子育ての本には、「子どもを褒めて伸ばそう」と書かれていることがとても多く、いまや子育ての常識のように言われています。これは、褒めることによって子どもに自信をつけさせ、さらにやる気を引き出すためだとされています。こういう考え方は、大人にも当てはまることが多く、私自身も人から褒められることがあればとても嬉しい気持ちになりますし、また頑張ろうと明日への意欲が湧いてきます。

しかし、褒め方にもいろいろあり、より良い効果を生むには大切なポイントがあるそうです。例えば、次のように子どもを褒めてみます。

- ・試験でよい点数を取ったので、「なんて頭がよいのだろう！」
- ・サッカーでゴールを決めたら、「サッカーのセンスが抜群だね！」

こうやって褒められた子どもは、当然、嬉しく感じ自信を深めるでしょう。しかし、さらなるやる気が起きるかという、そうでもないようです。

英国のリチャード・ワイズマン博士の著書「その科学が成功を決める」には、1990年代の終わりに、コロンビア大学のクラウディア・ミュラーとキャロル・デュエックの「褒めることの研究」が取り上げられています。そこでは、「『頭が良い』と褒められた子どもは、気分は良くなるが、同時に失敗を恐れるようになる。成功しなかったら格好が悪いと考え、難しい問題への挑戦を避けるようになる。」と指摘されています。

そういえば、私も小学生時代に「運動神経がいいね！」と褒められて以降、難しそうな運動や初めて経験するスポーツから距離を置くようになったことを思い出します。これは、「うまく出来なかったら恥ずかしい。かっこう悪い。」という心の奥底にある気持ちが関係したのだと思います。

では、どうしたら良いのか、ワイズマン博士はこのように述べています。

「褒めるなら、子どもの才能や知能ではなく、努力や集中力、時間の使い方などについて褒める方が、はるかに効果がある。」

- ・試験で良い点数を取った子には「ずいぶん勉強したのだね！」「大変だったのに、計画的によくできたね！」「遊びに行かずに頑張った偉かったね！」
- ・サッカーでゴールを決めた子には「厳しい練習をよく頑張ったね！」「チームメイトとの連携が素晴らしかったからね！」

私も、職場では「子どもの良いところを見つけて褒めよう」と、よく話をします。これは、私自身が「褒めることによって、子どもの行動がより良い方向に変容」していったことをたくさん経験してきたからです。「褒め方一つで子どもは変わる。」このことを胸に刻み、「取り組む過程における児童の育ち」に目を向けた教育を目指して進んでいきたいと思っています。

スポーツフェスタ実行委員長より

10月5日と10日は「王小スポーツフェスタ」でした。天候により、2日間の開催となりましたが、たくさんの保護者の方々にお越しいただき、応援していただいたことに心から感謝しております。

今回のスポーツフェスタは、「子供たちが主体となって行事に関わり、考え、行動して楽しむ」ことをねらいとしました。当日は、それまでの練習の成果を十分に発揮し、精一杯競技に取り組む姿が見えました。また、10日には、競技の合間に応援チームのダンス曲を流すと、自然と子供たちが立ち上がり、踊り始めました。その様子を見て「運動を楽しむとはこういうことなのだ！」と強く感じました。

今後も子供たち中心の行事を考えてまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

スポーツフェスタ 各学年より

1年生

「ピカピカ☆ショータイム！」では、4つの曲でダンスをしました。1曲目の「ピカチュウの歌」は、キラキラしたポンポンが映えるよう、手をリズムよく振ることを意識して、行進しました。とてもきれいでした！2曲目のポケダンスでは、特にサビの腰の振りに気合を入れました。小さな1年生の体が左右に揺れる姿はとても可愛かったです！3曲目の「唱」は、かっこいい曲ですが、元気よく明るい気持ちになれるようダイナミックに踊りました。足と手の動きがそろってとってもクールでした！4曲目の「おジャ魔女カーニバル」は、ショーが終わってしまうさみしさを吹き飛ばすような、楽しいダンスをしました！また来年もステキなダンスを見せてくれることでショー！

2年生

「みんなが1ばん！きらきらダンスホール」では、【元気に声を出しながら、おまつりのように楽しくおどる。】をめあてに、みんなで一致団結して取り組んできました。本番では、そのめあてを達成して全力で楽しんで踊る姿が素敵でした。
「さあ150！ダンシング玉入れ、大玉ころがし」では、1年生との合同競技なので、自分もがんばるけれど、上の学年として1年生が楽しめるように支えることもめあてに取り組みました。1年生に声を掛けたり、助けたりしている姿が立派でした。
スポーツフェスタを通して、一人ひとりが成長した姿を見ることができました。
2年生よくがんばりました。

3年生

「3shine Flag!」では、各クラスのグループごとに自分で考えた振り付けを盛り込んで、表現しました。
立ち位置を覚えて移動したり、指先や旗の音まで意識したりするなど、スポーツフェスタの最初に相応しい華やかなダンスを踊りきりました。
みんなが気持ちを込めて踊っている姿は、きらきらと輝いているようでした。
「お助けつな引き」では、助けに来てくれる4年生が綱を持つスペースを空けようとして、中心にできるだけ詰めていました。自分が一生懸命つなを引っ張るだけでなく、4年生と協力できるように声を掛け合う姿を見ることができました。

4年生

「爽涼狐舞（そうりょうこぶ）」では、「自分たちの楽しむ姿で見ている人を楽しませる」ことを念頭に、ダンスプロジェクトのメンバーが中心となって練習しました。
振り付けの意味について考え、工夫して表現したり、オリジナルの振り付けやポーズを作ったりと、自分たち、見ている人たちが楽しむことのできるよう精一杯に工夫して踊ることができました。
「台風の目」では、列はできるだけ詰めて並びことや棒をまたいだらすぐ座ることなど、4年生が積極的に指示したり戦略について考えたりしました。上級生としての責任をもち、3年生のことをリードすることができました。大変立派でした。

5年生

きっと大丈夫！！

学年のテーマである言葉。本番前に心の中で言い聞かせ、練習した成果が発揮できました。憧れのまなざしで見ていたソーラン節を今年から踊る立場になり、これまでの伝統や多くの人の思いを感じて踊ることができました。一生懸命に踊った姿は、きっと下級生の目にも憧れとして映ったことでしょう。練習の段階から自分たちでやり抜いた子どもたちが立派でした。
戦略を考え、力強く戦った騎馬戦。流れるようなバトンパスと必死になって追うリレー。その瞬間瞬間に、子ども達の成長を感じました。
スポーツフェスタにおいて、様々な場面で支えていた6年生の姿を目の当たりにし、「来年は自分たちの番だ！」と意気込んでいます。

6年生

小学校生活最後のスポーツフェスタ！！表現運動では、150周年バージョンにするべく、例年のソーラン節に徒手体操やナルトの民舞を加え、プロジェクトリーダーの児童を中心に練習しました。恒例の5年生との協働学習では、緊張しながらもソーラン節やナルトの動きを、5年生に教える姿が見られ、6年生としての役割を意識した“考動”に繋げることができました。団体種目のリレーや騎馬戦では、自分が選んだ種目をやり遂げる姿に感心しました。スムーズなバトンパスや白熱した騎馬の戦いは“さすが高学年”と感じられたことと思います。
そして、スポフェスを盛り上げた係活動！！応援隊を中心にみんなで楽しみながら応援しました。また、様々な係がスポフェスを支えました。
王小の新たな歴史の1ページが刻まれました。